

内閣府 地域社会雇用創造事業  
地域密着型インターンシップ研修

NPO 法人 素材広場

第八期インターン 最終報告書

平成 23 年 8 月 19 日 ニックネーム ツヨぽん

## 1.1 前提条件・問題意識

福島県は宿泊者が年間約 700 万人以上の東北随一の観光県であり、その中でも会津地域は、年間約 350 万人が訪れる県一番の観光地である。

県外の人々から見る会津のイメージといえば、鶴ヶ城、白虎隊、猪苗代湖など、環境資源・歴史資源の色が強く、概ね良い印象を持っている話を聞くことが多い。一方、地元会津で生活する人々から見る会津のイメージといえば、中市街地の空洞化や労働力人口の流出など、マイナスの印象を持つ話を聞くことが多い。

これら話を踏まえて、自身の中での会津に関する意識の明確化を図ったところ、以下の4点となった。

- ① 地域内外でのイメージギャップが大きい
- ② 観光地としての会津、農作物の風評被害の状況はどうか
- ③ 震災以後の大熊町の行政機能、受け入れ現場の状況はどうか
- ④ 中心市街地の状況、市民のまちづくりへの参加状況はどうか

## 1.2 前提条件・問題意識を踏まえた研修テーマの設定

前述の前提条件・問題意識を踏まえて、自身が当該研修に参加するに当たってのテーマを設定した。

- ① 会津地域の風評被害の影響を確認する
- ② 観光地としての会津を確認する
- ③ 会津および大熊町の地域コミュニティの状況を確認する

## 1.3 研修目的

1.2 で設定したテーマに基づき、当該研修に係る目的を設定した。かねてより故郷会津若松を活性化したいと考えていたものの、まずは**テーマに基づき様々な現場を見て、体験し、多くの方々の意見を聞くことで、生の情報を収集することを第一の目的**とした。また、活性化を目的とせず、**企画の具現化により結果として会津を活性化させる**ということを**第二の目的**とした。そのため、当該研修においては**実現可能な企画の検討・作成を主目的とする**。

## 2.1 東山観光協会（窓口対応業務およびその他一般業務）

### 2.1.1 研修概要

研修場所：福島県会津若松市 東山温泉観光協会

研修期間：平成 23 年 7 月 26 日～平成 23 年 8 月 16 日まで（土日除く）

研修内容：1. 大熊町から各宿への避難者人数・世帯数確認、行政等への報告

2. 各宿の空室状況確認

3. 宿泊客の宿予約手続き

4. その他窓口問い合わせ対応等

### 2.1.2 各テーマを踏まえて業務を行った気づき

テーマ①【会津地域の風評被害の影響を確認する】に基づく観点

- ・震災直後は交通の分断もあり予約客のキャンセル多数
- ・マスコミ等の的確、迅速な情報発信もあり、客数は徐々に回復（GW中、お盆期間中はほぼ満室）

気づき⇒来客数は観光協会の事前予測ほど大きな被害はない。会津東山温泉の知名度・ネームバリューは非常に大きいのではないか。



写真 1 東山温泉観光協会 外観



写真 2 東山観光協会 内観

## 2.2 東山観光協会（夏祭り企画・運營業務、地域コミュニティ確認）

### 2.2.1 研修概要

研修場所：福島県会津若松市 東山温泉観光協会及び平成 23 年度会津東山温泉夏の村まつり実行委員会

研修期間：平成 23 年 7 月 26 日～平成 23 年 8 月 16 日まで（土日除く）

研修内容：1. 祭り運営に係るスケジュール、予算表の作成、ポスター打ち合せ  
2. 各宿、店舗等への夏祭りポスター、その他備品の配布  
3. 実行委員会等打ち合わせへの参加  
4. 夏祭り事務局準備・設営  
5. 夏祭り期間中のシャトルバス誘導、来場者の安全確保  
6. 東山温泉街視察、ヒアリング等

### 2.2.2 各テーマを踏まえて業務を行った気づき

テーマ②【観光地としての状況確認】に基づく観点

- ・今年度の夏祭りは規模・期間を縮小しての開催となったが、最終日には新相馬節による盆踊りの開催により多数の大熊町民の方も訪れるなど、企画内容、来場数ともに概ね好評だった。
- ・震災の影響もあって温泉街の足湯が中止されているなど、昼間にまちを行きかう人は極めて少ない。

気づき⇒対外的に各宿の特徴、顔が見えにくい 状況があるので、もう少し各々の宿の強みを先鋭化させる必要があるのではないか。

観光客が歩いて楽しめるまちの雰囲気づくり、しかけづくりがあっても良いのではないか。まちのイメージ向上にもつながる。

テーマ③【地域コミュニティの状況確認】に基づく観点

- ・宿の経営者の高齢化、後継ぎ不足問題等により、温泉街の宿数は年々減少の一途をたどっている。(昭和 40～50 年 合計 38 軒 現在は 21 軒)
- ・東山温泉活性化検討報告書(平成 16 年作成)に基づき、活性化方策を実施しているものの、その効果は実感しにくい。(ハード整備の限界)
- ・町場の射的屋や酒場兼まんが資料館(ほっと東山)など、地域資源はいくつかあり、利用客の憩いの場所として機能している。
- ・夏祭り準備は観光協会が大部分を行っている。地域住民、旅館関係者の協力意識は低い。まちのリーダー的存在の不在が大きな原因となっていると考えられる。

気づき⇒夏祭りの盛り上がりを一過性のものとせず、地域資源を絡めて継続的に維持していくためのシステム構築が必要と思われる。



写真3 東山温泉街の街並み



写真4 東山温泉夏の村まつり



写真5 夏の村まつりポスター



写真6 東山温泉街 射的屋



写真7 東山温泉街 ほっと東山

## 2.3 東山観光協会（原瀧関連等）

### 2.3.1 研修概要

研修場所：福島県会津若松市 東山温泉原瀧旅館にて各宿関係者、避難者ヒアリング

研修期間：平成23年7月26日～平成23年8月16日までの随時

研修内容：1. 大熊町からの避難者（大熊町民生委員秋本氏）、各宿関係者へのヒアリング等

### 2.3.2 各テーマを踏まえて業務を行った気づき

テーマ③【地域コミュニティの状況確認】に基づく観点

- ・大熊町からの避難者数は、当初最大で約2,300人（H23.6）。現在は約730人まで減少している。（H23.8.16）
- ・ボランティアによるこども勉強会、ヘアカットサービスなど、各種イベントへの参加意欲は強いとのこと。
- ・移動の手段のない方は、なかなか宿外、市内に外出することが困難とのこと。

気づき⇒今後、各宿から各仮設住宅地域に移動した際のコミュニティ形成が課題である。独居老人や子供など、社会的弱者の救済は急務とのこと。

仮設住宅地に移動した後のコミュニティ 再生方策が必要と考える。  
（活動のきっかけづくりが必要）



写真8 大熊町民集会所 ゆっくりすっぺ



写真9 仮設住宅地 松永地区

## 2.4 新潟物産販売

### 2.4.1 研修概要

研修場所：新潟県新潟市上古町商店街青空市場、古町モール旧大和デパート前

研修期間：平成23年7月31日、平成23年8月6、7日

研修内容：1. 青空市場における福島市大友農園さんとの共同物産販売

（商品：バンダイポップ、アクアイズ、さるなしドリンク）

2. ふるさと未来創造プロジェクトによる旧大和デパート前での福島県物産販売（商品：バンダイポップ、アクアイズ、さるなしドリンク、川俣シャモ地鶏カレー、川俣シャモ地鶏うどん 他）

### 2.4.2 各テーマを踏まえて業務を行った気づき

テーマ①【会津地域の風評被害の影響確認】に基づく観点

- ・概ね福島県を応援する声が多数（一部に放射能の影響を 危惧する声もあり
- ・商品陳列、呼び込み等に工夫をするものの、なかなか売り上げは伸びなかった。

気づき⇒ブース前を通る人も一瞥するものの、福島の文字を目にしてもなかなか立ち止まってくれないことが多かった。復興支援意識が時間の経過とともに薄れている可能性が高いと思われる。

商品情報の伝達（ポップのデザイン、特徴の周知）に工夫を凝らすことで、売り上げは十分伸ばす事が出来るのではないかと。商品の質の良さをストレートに伝えることで、顧客の確保は十分出来るのではないと思われる。



写真 10 新潟市古町青空市場物販



写真 11 新潟市古町旧大和デパート前物販



### 3.1 仮説の検証と解決に向けて

#### 3.1.1 気づきを通じた仮説の設定

当該研修による各種業務を行っていく中で、幾つかの気づきがあった。それらを踏まえて仮説を設定した。

##### 仮説 1

- ・地元の人々がまち・地域資源の 魅力に気づいていないだけでないか？  
⇒どうすれば魅力に気づくことができるか

##### 仮説 2

- ・地元の人(大熊町民舎)が活動のきっかけ をつかめていないだけではないか？  
⇒どうすればきっかけを作ることができるか？

#### 3.1.2 仮説の検証とその解決に向けた具体の方策検討・作成

別紙のとおり、仮説の検証を踏まえて、その解決方策案を検討・作成した。

目標実施スケジュール 【平成 23 年 10 月中に第 1 回開催目標】

### 4.1 目的達成度と今後のキャリア形成について

#### 4.1.1 目的達成度

当該研修における目的達成度は、1.3 で設定した目的に基づけば、一定程度は達成したと考えられる。しかし、実施を前提とした企画案としているため、今後、実施に係る人材、技術・ノウハウ、コスト等各種課題について詳細の検討をし、計画のブラッシュアップを図る必要がある。そのため、残りの滞在期間で引き続き検討を進めるとともに、終了後も継続的に地元関係者等へ実施に向けた働きかけ、関係づくりをしていきたい。

#### 4.1.2 今後のキャリアについて

3.1.2 で立案した計画の推進を図るとともに、中長期的に会津のまちづくりに関わっていきたいと考えている。今回のインターンを通じて感じた得た各種課題は勿論、それ以外に会津若松の中心市街地の空洞化は早急な対策が必要と思われる。そのため、今回計画の推進と共に、中心市街地活性化に向けた検討を並行して行っていきたいと考えている。